

# いしづち

2020.9

SEPTEMBER

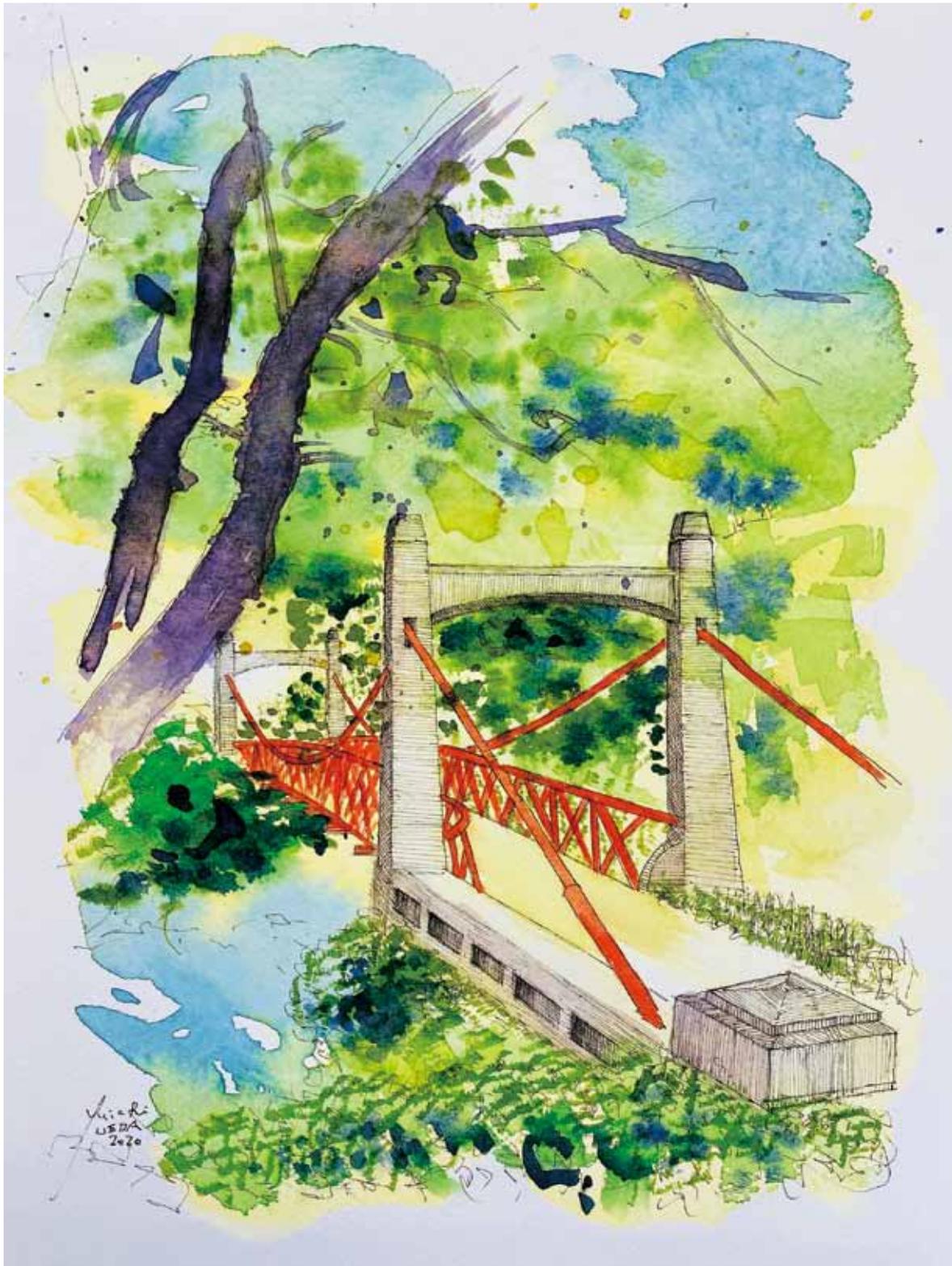
No.136



公益社団法人 愛媛県建築士会

Ehime Society of Architects & Building Engineers

<http://www.ehime-shikai.com>



会長就任挨拶

世界建築紀行 落水荘とライト建築を訪ねて

スマホで撮る 建築写真 高性能カメラアプリでスマホの撮影レベルUP

1	会長就任挨拶	会長 赤根 良忠……①
2	世界建築紀行 落水荘とライト建築を訪ねて	西予支部 松山 清……②
3	スマホで撮る建築写真 高性能カメラアプリでスマホの撮影レベルUP	中村写真事務所 中村 誠二……③
4	委員会報告 青年委員会からのご挨拶	青年委員長 和田 崇……④
5	ご案内 既存住宅状況調査技術者講習のご案内	事務局……⑤
6	けんちくの輪 「木造住宅の耐震化」のPR活動 製材で建築士	西条支部 佐藤 尚武……⑥ 松山支部 河田 大樹……⑦
7	お知らせ 令和2年度通常総会概要報告 第2回理事会概要報告	事務局……⑧ 事務局……⑨



## 透明水彩、ペン、紙

題：「あかばし(岩堰橋)」上田 勇一  
[表紙画について]

「あかばし」は大正13年竣工。橋長18.2m・幅1.4mのつり橋で、桜や菜の花など季節の花々とともに、地域の人々に親しまれています。岩堰の景観は、初代松山城主・加藤嘉明が城下を洪水から守るために、石手川(湯山川)改修工事に着手したところまで遡ります。指示を受けた足立重信は、岩堰に立ちふさがる岩盤を切り開き、ここから流れを西南に向けました。余戸で重信川(伊予川)に合流させ、岩堰の掘削は、石切鑿<sup>のみ</sup>だけで固い岩盤を削ったのでした。今も残る石鑿の跡は、当時の難工事を物語っています。

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

- 1974 東京生まれ
  - 1980 小学校から高校まで松山在住
  - 1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
  - 1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞  
(愛媛県建築士事務所協会主催)
  - 1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
  - 1996 日本工業大学建築学科 卒業
  - 1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
  - 2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」  
(新潮社)の装丁担当
  - 2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
  - 2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」收藏される
  - 2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載  
絵画教室やオリジナルブランド額工房「(株)リエルカ」を設立
  - 2017 「えひめの塗り絵」を出版
- その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。  
現在、現代日本美術会 会員/審査員

# 会長就任挨拶

(公社)愛媛県建築士会会長 赤根 良忠

令和2年度通常総会は役員改選の重要な総会でもあるにもかかわらず、今年に入り新型コロナウイルスの蔓延に依り令和元年度末から新年度にかけての様々な会議が人数制限されたり縮小であったり、書面又はウェブ会議であったりと、今までに経験したことのない例年とは全く違った形での開催方法となり、同様に総会も縮小した形での開催・決議方法となりましたが、皆様のご理解とご協力により各議案も承認・議決を得ることが出来ました。副会長をはじめ常務理事・理事・監事も新しい人員でスタートすることとなりました。私は引続き、会長の大役を仰せつかることとなりました。新役員と一丸となって本会発展に努めますので、従前と変わらぬお力添えを頂きますようお願い申し上げます。

今年度の会長表彰・感謝状贈呈者の方には式典の場での贈呈も出来ず、また従来であれば県内各支部から参加の会員の皆様においても、年に一度の懇親会での交流もできませんでしたが、来年には今年の方まで盛大な総会行事が可能になるよう、ただ収束を祈るだけです。

昨年度より準備を重ねていた中国四国青年・女性ブロック大会もウイルス蔓延に依り中止となり、この大会に向けての青年女性委員会スタッフのこれまでの苦労が残念でありませんが、緊急事態宣言が発令されるような社会情勢の中では仕方なかったかと思えます。しかし、この会に向けての委員会活動の経験は全く無駄ではなく、将来に渡り様々な形で生かされるものと思えます。

例年なら既に県内各支部でも開かれていた「建築士の日の行事」もウイルスの蔓延に収束が見えないまま通常の方法では開催が困難と思えますが、状況を見ながらの検討のうえ、来年2月くらいまでに無理のない行事を行っていただければと思います。

当会の一大行事といっても過言ではない、建築士法の改正後、初めての受験資格に依る一級・二級・木造建築士学科試験が先般愛媛大学を会場に行われ、無事終えることが出来ました。受験者数は例年より増加しましたが昨年までと違い、ウイルス対策の検温・消毒にも多くの手を取られ試験監理員さんも緊迫した一日ではなかったかと思いました。この経験を活かし設計製図の試験並びに順次開催される指定講習会などにも同様の感染対策を行い、当会行事が要因とならないよう気を付けたいと思います。

一方で士会の正会員は、全国的な数字より減少率は少ないといえ毎年漸減しております。建築士の合格率の低下また高齢化社会も原因の一つかも知れませんが、会員の年齢別構成比率から数年後を想定すると、このままでは会の存続に支障が出るのではないかと思われ、何とか

今のうちにと対策を打ち出して数年経ちますが、これといった効果が発揮できていないのが現状です。執行部もさることながら、会員一丸となって取り組まなければならない重要な課題と考えています。

現在の社会情勢の中では、県内各支部の活動や各委員会活動も通常のままでは行えない場面も多いと思えますが、状況を踏まえて冷静に判断して頂けたらと思います。

公益法人としての公益行事比率も考えなければなりません。無理をしてまでの活動は止めるべきだと思います。開催しない判断の方がハードルは高いと思えます。公益社団法人愛媛県建築士会の会員として秩序と責任をもって行動して頂き、このような時こそ会員一同知恵と力を会わせて乗り切りたいと思います。

会員の皆さん、関係各位のご協力をお願いします。



令和2年度通常総会写真

## 1 世界遺産登録された落水荘

2019年7月、落水荘・ユニティテンプル・グッゲンハイム美術館など8つの建築作品が「フランク・ロイド・ライトの20世紀建築作品群」として世界遺産に登録されました。落水荘の写真を初めて目にしたのは大学の西洋建築史の授業で、建物の下から滝が流れ落ちている姿に衝撃を受けたことを覚えています。このライトの代表作をいつか見てみたい、とずっと思っていました。昨年8月ANAの機内誌に落水荘が紹介されていてワシントンから行けるということを知り、10月末訪ねました。



滝と一体に見える落水荘

## 2 落水荘への旅

落水荘はペンシルバニア州ピッツバーグ近くの森の中に建つ、百貨店経営の実業家エドガー・カウフマンの別荘でした。カウフマンの息子をライトが弟子にした縁でこの別荘の設計を依頼され、滝を眺めながら過ごせる建物をという希望に対し、ライトは滝と一体となって暮らすことを提案しFallingwater(落水荘)が実現しました。

落水荘まではワシントンを朝早く出発し、ハイウェイを西へ西へと走り続けやっとお昼頃到着します。公共交通機関では行けないので、自分でレンタカーを借りるかツアーを利用することになります。今回はツアーで行きましたが、参加者が私一人だったので料金が\$382なのに倍必要だと言われ、かなり躊躇。しかし「もう二度と来ることはできない」と思い、少しディスカウントしてもらって行くことにしました。10月末のペンシルバニアはちょうど紅葉の見頃の時期で、出発したときは雨だったのに落水荘が近づくにつれて青空が広がり、落水荘の周辺は色づきもいい感じで秋真っ盛りという雰囲気でした。

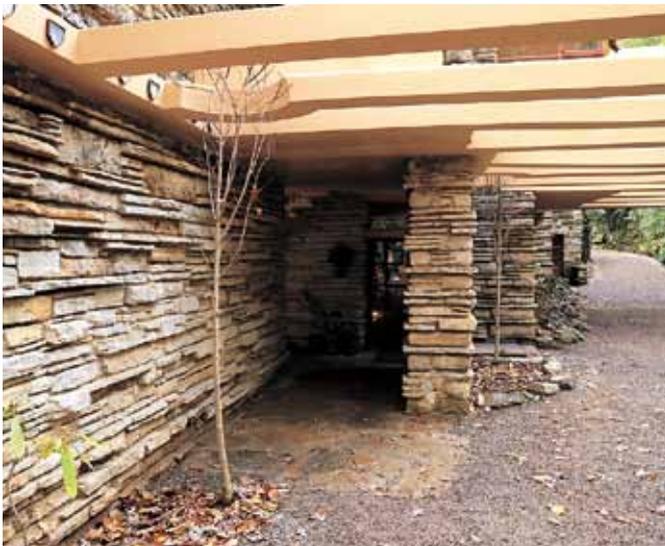
1963年カウフマン一家は落水荘とその上に隣接するゲストハウスをペンシルバニア州保存委員会に寄付したので、春から秋の間同委員会が定期見学ツアーを実施していて、それに参加することで見学が出来ます。英語のツアーなので日本語オーディオガイドを借りました。

世界遺産に登録されたこともあり山の中のビジターハウスの駐車場は満杯、全米各地から落水荘の見学に押し寄せていました。事前予約した時間になるとガイドと十人程度のグループでビジターハウスから歩いてシャクナゲの繁る森の小道を下って行き、細いベアラン川沿いに数分で到着。そこには橋が架けられていて、その渡ったところに落水荘は建っています。85年という時を越えてライトの「自然と一体になった建物を設計する」という精神が伝わってくるようです。橋から見ると川の上まで跳ね出した大きなバルコニーとリビングの長い屋根、そして川面へと下る階段がこれまで写真で何回も見た通り、当たり前のようにそこにありました。



ペアラン川に跳ね出したリビング

玄関は川と反対側にあり格子ガラスの小さな鉄サッシで、そこから内部へ入るとすぐに広いリビングに繋がっていて森の中の空間に溶け込むようでした。そして窓際には造り付けのソファが配置され大勢の家族や客人が集うスペースとなっており、その一部に川へと降りていく階段があって、これまで写真でしか見てなかった不思議さを実際に確認することができました。内部の写真撮影はできなかったので残念ですが、それぞれの部屋や家具などがきめ細かく設計され、ライトの設計の完成度の高さを感じました。また、落水荘の表の表情は整然としていますが、その実現のため裏側は岩盤にへばりいてバランスをとるような構造となっていました。



意外と小さな玄関



岩盤を一体とした構造

帰りには落水荘を見てライトに惚れ込み設計を依頼したハイガン邸、ケンタック・ノブへ寄り道、ちょうど見学ツアーに参加できました。こちらも`翼の王国、で紹介されており、ユーズニアンスタイルのリビングの広い家でした。



ケンタック・ノブツアー



六角形のトップライト

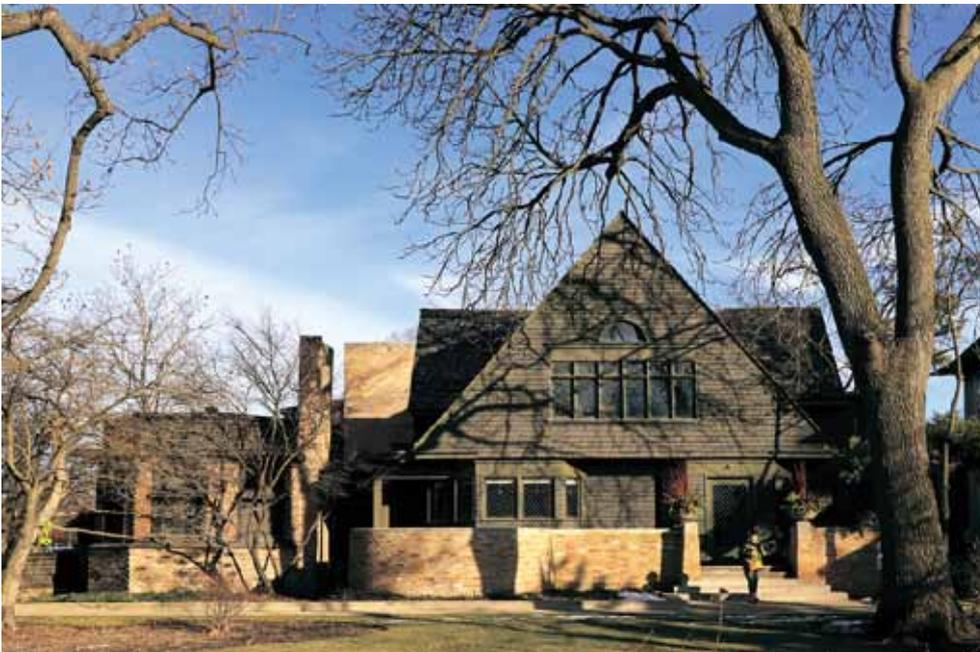


### ③ シカゴのライト建築

19才で建築の道を目指したライトは、サリバン事務所から独立し1898年、31才で自宅の隣に事務所兼制作室を完成させました。それを含めライトの前期黄金時代の建築作品が見れるので、シカゴの“オークパークはライト作品の美術館”と言われており、今年2月初めに訪れました。連日氷点下の冬空でしたがその日だけは摂氏10℃を越え青空の下、ライトの住宅作品等を見ることが出来ました。

ライトは初め大きな切妻屋根をもつ2階建ての家を建て、2階を設計事務所として使っていましたが、建築後6人の子供が次々に生まれると家が手狭になり、事務所を子供部屋としたり学習室や食堂などの増築を行っていきました。ライトは自分の理想とする「家庭と仕事場の密接」を実践し、1909年までの20年間をここで過ごしました。ガイドツアーで内部を見学、20世紀の4大巨匠と言われるライトなので、もっと大きなスタジオを

イメージしていたのですが、意外とコンパクトでライトの人生と生活感も感じられ、ライトを身近に思えました。



ライト事務所と自宅（西面）



ライト事務所のスタジオ（東面）



スタジオ内部



オークパークのムーア邸（上）とヒュートレイ邸（下）

ライトは1909年、施主だったチェニー夫人と恋に落ち、突然家族と離れてヨーロッパへ渡り、その後不遇の時代を迎えます。それを乗り越えて誕生したのが1935年の落水荘だったわけです。その間、1913年に帝国ホテルの設計のため来日しますが、予算オーバーのため途中で解約となり、弟子が1923年に完成させました。

その他、いずれも世界遺産となったライト初めての公共建築ユニティテンプルやシカゴ大学敷地にあるプレーリースタイルのロビー邸なども見ることができました。



ユニティテンプル



ロビー邸

#### 4 ライトと建築について

ライト作品を実際に自分の目でみると、建築に対するライトの思いや情熱を感じずにはられません。今の時代にも時間を越えて色あせず、何かを語りかけてくるような気がします。自分の設計の中でライトがとても気に入っていたという旧帝国ホテルを見るため、今年6月、そのロビー部分が保存されている明治村に行きました。改めてそれを見つめていると「ライトは様々な作品を通じて建築として一つの道を示している」と思いました。



明治村に保存される旧帝国ホテルロビー

みなさんこんにちは！

前号では建築撮影では致命的となる広角レンズの歪み補正についてレクチャーしましたが、今回は**Procam7**というサードパーティ製アプリを使った撮影方法をご紹介します。

ただ、残念なことにこのアプリは有料で980円と少々お高くなっています。

私が購入した数年前は200円程度だったように記憶していますが、より高機能になった分値段も上がってしまったようです。

## ProCam 7

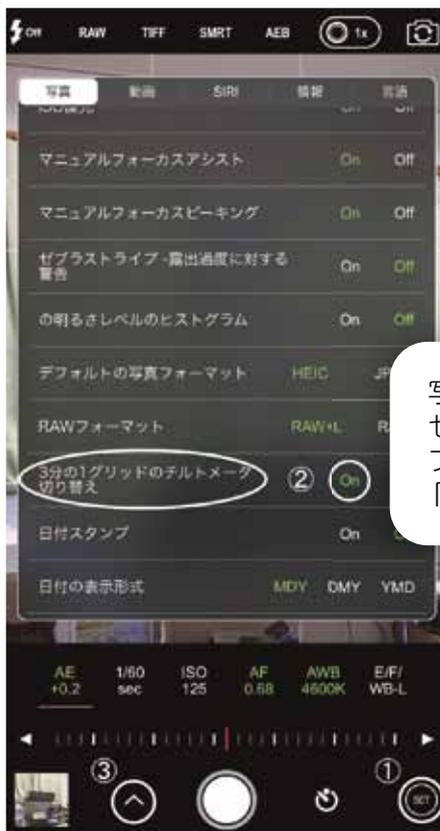


### 一眼並に多機能な本格派カメラ

洗練された UI と多機能さが特徴のカメラアプリです。一眼カメラを思わせる細やかな設定が可能。撮影後の編集機能も充実しています。スマホに入れておくと、細部までこだわった撮影が可能になります。

## 準備

撮影前設定▼方眼マツト・水準器の表示



### 【撮影前にやっておきたい設定】

- ◀手順1 アプリを起動する
- ◀手順2 右下にある①「SET」ボタンをタップ
- ◀手順3 「1/3グリッドのチルトメータ切り替え」をOnに
- ◀手順4 できたら③の矢印をタップ
- ▼手順5 ○で囲んである箇所をタップして方眼を表示

写真の縦横比はセンサーサイズをフルに活かせる「4:3」がいいでしょう。



これで撮影前の準備は完了です。撮影時の画面に方眼マツトと水準器が表示されるようになりました。



HPはこちら▼



表題のテーマで一年間連載を担当させていただくことになりましたカメラマンの中村と申します。もし私にご興味のある奇特な方がいらっしゃいましたら右上の**QRコードからHPをご覧ください。**

## 撮影

アプリを使った撮影

先日所用で「坂の上の雲ミュージアム」に行ったときに撮影してみました。



この状態で水平垂直が出ています。これが狂うと…

水準器がこのようになります。



この状態でカメラは下を向き、左に傾いています。下3分の1の線が一直線になればOKです。

今回は縦位置でカメラを水平垂直に構えて撮影し、後でトリミングして横位置にする方法を取りましたが、もちろん横位置であおって撮影し、前回ご紹介しましたSKRWITなどを使って上すばまりを補正するやり方も有効です。モノクロでは見辛いと思いますが、この状態で水平垂直が出ています。

これが狂うと水準器がこのようになります。ちなみに、なぜこのような面倒くさいアプリを使うかと申しますと、iPhone標準のカメラアプリでは全てオートでの撮影になってしまうため、特に室内などの暗い場面ではISO感度が上がってしまってノイズが多くなりがちです。このような場面でも、このアプリなら手ブレしない範囲で手動で感度を下げられますし、またタングステンの室内照明も見たままのオレンジ色にしたり白くしたりが自由自在です。(ISO感度は画面下の「ISO」を、ホワイトバランスはこの画面では「AWB」をタップして下のスライダーで調整できます)

## 完成!

色味や明るさの調整はできる限り撮影時にしておくことが画質アップの鉄則です。後処理でこれを行うとカラーバランスが崩れたり白飛び・黒つぶれが起きやすくなるので、後処理する場合でも最小限で済むようにできる限り撮影時に調整しておきます。

こうして撮影し、後でトリミングした完成写真がこちら。



この日はいいお天気だったものの、雲があまりいい状態ではなかったため、他のアプリを使って空を入れ替えています。

空の入れ替えができるアプリについてはまた次号以降でご紹介したいと思います。お楽しみに!

## 青年委員会からのご挨拶

青年委員長 和田 崇

本年度より、青年委員長の大役を仰せつかりました、松山支部の和田崇と申します。昨年度までは青年副委員長として、松平前委員長のもと、さまざまな活動に参加させてもらいました。また、青年委員としては、建築士会館の設計という貴重な経験もさせていただきました。

先行きの不透明な新型コロナウイルスの影響により、本年度開催を予定していた中四国ブロック愛媛大会の中止など、出来ることが大きく制限されますが、webを使った外部への発信や委員会内の連携の強化など出来ることを模索していきたいです。

士会活動の中でも個人的には、建築士を目指す若い方や子供たちに建築の魅力、楽しさを伝えることに一番興

味があります。

具体的には、二年前から始めた建築士試験事前勉強会や長年継続している県内の高校生を対象にした「とびだせ建築士」という事業、松山支部の事業である小学生対象の模型作り体験、といった活動に力を入れたいと考えています。

今期の青年委員のメンバーもさまざまな個性の集まりで、一緒に活動出来ることがとても楽しみです。

諸先輩方はじめ、皆さまにご指導いただき、より良い委員会となるよう協力して活動を進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

## 既存住宅状況調査 技術者講習のご案内

### 新規講習の受講対象者

一級建築士、二級建築士または木造建築士  
〔愛媛開催 11月12日(木)〕

#### ★受講料

- WEB申込み…21,450円(税込)
  - 郵送申込み…22,000円(税込)
- ※受講料にはテキスト・修了証明書交付費用・登録料を含みます。

#### ★講習プログラム

既存住宅状況調査の概要等……………120分  
既存住宅状況調査の技術的基準等…180分  
修了考査……………50分

#### 申込み

▼申込みは連合会ホームページから▼

<http://www.kenchikushikai.or.jp>

国土交通省既存住宅状況調査技術者講習登録講習機関2号(登録日…平成29年3月27日)

公益社団法人 日本建築士会連合会 既存住宅状況調査技術者実施本部

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20建築会館5階 TEL. 03-3456-2061

### 更新講習の受講対象者

既存住宅状況調査技術者  
〔愛媛開催 11月17日(火)〕

- 受講時点で資格の有効期限内である方に限ります。
- 他団体で登録されている既存住宅状況調査技術者でも建築士会の更新講習を受講できます。
- 更新講習については、オンラインによる講習も準備中。

#### ★受講料

- 更新講習WEB申込み…17,000円(税込)
  - 郵送申込み……………17,600円(税込)
- ※受講料にはテキスト・修了証明書交付費用・登録料を含みます。

#### ★講習プログラム

既存住宅状況調査の概要等・  
既存住宅状況調査の技術的基準等…135分  
修了考査……………30分

# 「木造住宅の耐震化」のPR活動

西条支部 西条市役所建築審査課 佐藤 尚武

令和2年7月26日(日)小松ふるさとまつりにおける「木造住宅耐震化」のPR活動は開催中止となりました。

愛媛県建築士会の会員の皆様におかれましては、西条市の建築行政に平素よりご協力をいただき、感謝申し上げます。

特に、西条市役所建築審査課といたしましては、西条市内の木造住宅の耐震化促進について、西条支部の会員の皆様のご協力を賜りまして、毎年お祭り等の各種イベント会場におけるPR活動(西条市役所建築審査課と愛媛県建築士会西条支部との共催)を行ってまいりました。

さて、この原稿を書いている令和2年7月29日現在においても、新型コロナウイルス感染拡大が止む兆しが見えません。世界的な感染拡大の広がりの中で、わが国でも、4月には緊急事態宣言が発令されました。感染拡大を食い止めるという観点からやむを得ない措置ですが、世の中に大きな影響をもたらしていることも事実です。建築士会西条支部においても、総会を书面決議とするなど、これまで考えられなかった事態に追い込まれているところです。

西条支部の行事も各種行事の中止・延期が相次いだことで、感染防止と活動継続との間で判断に迷いが生じかねない状況です。しかし、今はやるべきことを再確認しながら、例えば、屋外の青空の元で行う西条駅前緑化活動「花いっぱい運動」等は継続的におこなっております。

さて、西条市の「木造住宅の耐震化」のPR活動ですが、本年度で16年目を迎えております。西条市の補助事業により、耐震診断を実施した住宅の件数は、延べ500件を超え、同事業により改修工事を行った住宅の件数は延べ200件を超えるにいたりました。コロナ禍によって、避難所生活における感染症の危険性も指摘されている中で、自宅の耐震性を向上させる自助の必要性やニーズは、潜在的に高まっています。こうしたPR活動の流れを堅持することが必要なのだと改めて感じております。

本年のPR活動も、思ってもみなかった新型コロナウイルスの感染拡大にさらされている状況ですが、真剣な感染防止対応とともに、ゆったり冷静にその先を考えるとという視点で、例えば、感染終息までの間については、啓

発ちらしのポスティング活動などをおこなっていただけると考えております。

建築士会の会員の皆様には、今後ともご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



昨年の小松ふるさとまつり風景(令和元年7月27日)  
場所：西条市小松町 西条支部参加人数11名

去年のお祭りは例年通り人通りが多く、PR活動スタート時には通りに人があふれていました。この流れを来年の夏につなげていきたいと思っております。

## 製材で建築士

松山支部 河田 大樹

同じ北条地区の大先輩である亀井さんより大事なバトンを受け取りました、河田大樹と申します。のりくりとかわし続けた『いしづち』ですが、今回の「けんちくの輪」で初めての原稿を書かせて頂きたいと思います。普段文章を書くことがなく、読みにくい文章になっているかと思いますが、どうぞお付き合いくださいますようお願い申し上げます。

建築士会に入会させて頂いて5年ほど経ちますが、私のことをご存じない方が多いかと思うのでこの機会に自己紹介をさせて頂きたいと思います。私は現在、松山市（旧・北条市）で建築材を中心とした製材業・木材小売業をしております（皆様からのご注文、大歓迎です！）。日々の業務は、木材の製材、原木の買付け、製品の配達、プレカットの打合せ、設計のお手伝い、などです。新築物件の上棟日には地下足袋を履いて建て方を手伝いますし、丸太の仕入れが間に合わないときには自分で大型トラックを運転して丸太の配送もします。おそらく皆さんが想像するような製材業者とは少し違うのかもしれませんが、ですが、少数で小さな製材工場をやっている我が社では当たり前の事なのです。



作業場には春になると桜が咲きます

小さい頃から祖父と父が製材業を営んでいる環境で育ち、丸太や木材製品、そして大工さんがとても身近な存在でした。昔の大工さんはお酒が好きだったり言葉が荒かったり、子供の私には怖く映る時もありましたが、上棟日に重たい木を悠々と担いで家を建てていくその姿は、とてつもなく格好良く見えた記憶があります。それでも「大工さん」ではなく「製材」の仕事をしたかったのは祖父の「大きくなったら製材をやってくれ」という言葉があったからだと思います。私が仕事に就く前に祖父は亡くなってしまいその姿は見せられませんでした、

祖父の言葉を今でも思い出し、背中を押してもらえような気持ちになります。

大学の建築学科を卒業した後は、実家の製材工場ではなく他の会社に就職し、そこでプレカット部門へと配属されました。CADオペレーターとして1年半、プレカット営業として4年半仕事をさせて頂きました。覚えることが多かった1年半、怒られることが多かった4年半といった感じでしょうか。沢山の経験と知識を身に付けさせてもらい、それが今の仕事をする上での基礎となっています。とてもとても貴重な6年間でした。

そして今から10年前に実家の製材工場に帰ってきました。最初は汗まみれ泥まみれになりながら、なんとか仕事をこなす日々でした。営業職であまり体を動かしていなかった私は、3ヶ月で5キロほど痩せました。お恥ずかしい話ですが、杉と桧の違いも分からずに父や先輩職人に聞きに行っては笑われていたものです。製材の仕事しながら2級建築士の資格を取得し、建築士会にも入会させて頂きました。いつしか樹種の違いも分かるようになり（当たり前ですね）、少しずつ機械が使えるようになり、丸太の仕入れが分かるようになり、製材という商売が分かるようになり、やっと「木」のことが少しだけ分かるようになりました。「少しだけ」と書いたのは、「木」の仕事はすればするほど奥深く感じるからです。さらに木に触れる時間を積み重ねて、「木のことがわかった」と胸を張って言える様になりたいと思います。



松山北支部の皆さんと臥龍山荘にて（中央が筆者）

最後に、いつも建築士会での活動でお世話になっている方々にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。建築士会でお会いする方は、皆さんが知的でユーモアがある方ばかりです。皆さんと気兼ねなくお会いし、美味しいお酒が呑める日を楽しみにしています。

次のバトンは河窪茂樹さんです。お願いします！

## あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

### 「いしづち」の本年度の原稿締切日

令和2年 11月号 (137号) 令和2年9月24日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。 情報・広報委員会

## 読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛

FAX 089-948-0061

## 編集後記

夏と言えば夏祭りや花火ですが、今年は自粛モードでどこの地域でも開催されないようです。

凄く残念ですが、こんな時こそ、今まで行ったことのない地元の良さを感じる場所を探してみようと歩き回っています。

「雨瀧さん」東温市河之内にあるミニ高千穂の様な川と渓谷と滝が融合された綺麗な風景があります。

かつて、この雨瀧さんには龍がいるとされていて、松山藩の公儀雨乞い場として、道後平野の人々を救ってきた場所だったそうです。

近くには、この水を使った綺麗な棚田があり、地元のブランドとして穂田琉米を作っています。

このような綺麗な風景で作られるお米は格段に美味しく感じました。

こんな時だからこそ、地元を見つめ直して新たな発見も良いものです。

## 〈いしづち〉2020/9

令和2年9月発行

発行人 会長 赤根良忠

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061

<http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アマノ印刷有限会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/赤松 慶隆 門屋 広一 成松弘之助 西森 勉 花岡 晶子